

ロータリーの扉を開く言葉

ロータリーの扉を開く言葉

リーダー編

2018.2.25 職業奉仕セミナー 基調講演内容資料

P.RRIMC 2630 P.G. 服部芳樹

セミナーの配布資料

- 1 ロータリー語ときあかし辞典
- 2 ロータリーの目的（綱領）
- 3 決議23-34第1項
- 4 講基調講演内容資料

ロータリー語ときあかし辞典と、重複する部分は省略してあります。

Rotary の扉を開く言葉は？

ロータリーをひとことと言えば、そのロータリー語は？

それは、「**奉仕の理想**」（理念）The Ideal of Service.

それは何処に書いてある？

我々ロータリアンは、何を信じ何をなすべきかを述べた、

「**ロータリーの綱領**」（目的）に説かれている。

主文

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として、奉仕の理想（理念）を奨励し、これを育むことにある。

主文は説く

五大奉仕に沿った奉仕活動は、気合を入れてする大仕事。

それは奉仕の理想の心を以ってせよ。

奉仕の理想は、ロータリー精神の定義でもあり、その実践の座右の銘は、

「**四つのテスト**」。

「近江商人の三方よし」「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」

「サービス第一・利潤第二」「おもてなしの心」、

これら皆、四つのテストの理念と相通じている。

この仕事は幸せをもたらすだろうか？

客は勿論、仕入れ先も、下請けも、従業員にも、家族にも、周りのみんなに波紋のように、笑顔の輪に輪が広がるだろうか？

四つのテストのこの心が、

顧客のみならず家族は勿論、事業主が従業員に、従業員が事業主に、上司と部下、部下と上司、同僚同士、取引先にも・・・。

関係者すべてが、

同じ心で接する時、四つのテストは職域でその威力を発揮するであろう。

これが「職業奉仕の箴言^{しんげん}」と言われる所以。

職業繁栄のためにできた四つのテストは、やがて、言行を測る倫理基準となり、また良き人間関係の指針となった。

「人というものは、結びと繋がりの中でしか生きてゆけないもの」折口信夫。

人の幸せは出会いから。その絆を深めるもの、四つのテスト。

多くの出会いをくれるもの、ロータリー。

人との繋がりもおもてなしも、マナーあつてのこと。食事・挨拶・服装・・・もさることながら、ロータリアンの礼節を欠く最たるは、それは何だろうか？

He Profits Most Who Serves Best

Service Above Self

この二つのモットーは、

「決議 23-34」に説かれている。

1923年のセントルイス世界大会で採択された、第34号議案、

決議 23-34は綱領の実践指針。

・・・ 未来の指針として、綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表すもの・・・

2010年規定審議会では、第1項を「奉仕の哲学の定義とする」という日本から提出された議案が、世界中の代表議員の絶対多数の賛同を得て採択された。

決議 23-34 第1項（要約）

[・・・ ロータリーは基本的にはひとつの人生哲学であり・・・

利己と利他の心の葛藤を和らげようとするものである・・・

・・・この哲学は奉仕-「超我の奉仕」-の哲学であり「最も良く奉仕する者最も多く報いられる」という、実務上でも職業倫理に適った原則に基づくものである。]

二つのモットーは一組。

「最も良く奉仕するもの 最も多く報いられる」

He (One) profits most who serves best.

1902年経営学校を営んでいた Arthur Frederick Sheldon によって、セールス繁栄の原理として創作され、1911年講演の中で発表。

ここに於いて彼は、職業奉仕理念という「奉仕の概念」をロータリーに導入した。

もし私が、「職業奉仕をひと言で言えば」と訊かれたら、すかさず He Profits Most Who Serves Best と答えるだろう。

Sheldon は経済を支える精神を「奉仕」という「愛の世界の心」とであると語る。人ならば誰もが胸に抱く、永遠不滅の愛の心。それ故に今も尚、その精神は花開く。

Vocational Service 「職業奉仕」

職業奉仕の実践とは、なんだろう。

それはあなたにとって、あなたの職業が永く栄えていくために、日々努めている当たり前のこと。あまりにも身近にあり、あまりにも日常的だから、見逃しているだけなのではないだろうか。

初期のロータリーは互恵組織として発展したが、そのための絶対条件は「信頼＝信用」。これはまた、ロータリアンとしての必須条件。

あなたは、あなたの推薦者を「信頼」したからこそ入会したのでは？

「信頼なくして、職業奉仕なし」
信頼なくして、ロータリー成立せず。

揺るぎない信頼の基盤の上に、価値的合理性を以て、顧客の心を、洞察し、共感し、理解して行動する。

日々の^{なりわい}生業に、あなたが何時も努力していること。
この職業繁栄のための理論的体系が、狭義の職業奉仕論に他ならない。
それをより明確により深く学ぶ組織が、ロータリーではなかろうか。

特に日本では、ロータリー創設の時、多くの会員は超一流企業の長であり「伝統的な商業道徳＝家訓」と同列の考え方であったことが、職業奉仕理論を受容し易かったのであろう。

二つのモットーも四つのテストも、職業繁栄を願って創られている。

「ロータリアンの職業の繁栄なくしてロータリーなし」。

コンプライアンスを超えたところにある「奉仕の理想」を職業の理念とし、同業の範となるに相応しい倫理に基づいた高潔な仕事によって得られてこそ、ロータリアンが誇る職業の繁栄。

但し、

「信用」は商取引のテクニクックとするのが常識の国や民族もあり、「信用」が名誉をかけて守られる文化を是認する人であってのこと。無論この名誉は、肩書的名誉ではない。

二つのモットー・四つのテスト・職業奉仕、この対極にある言葉、

目的合理性行為 ・ ・ 貪り・欺瞞・我欲、これが商法と心得えている人もある。

そこで、

1927年英国のクラブからの提案で、職業奉仕はそれまでの Business Method の呼称から **Vocational Service** に変更され、「ロータリーで商売の話はご法度」などと厳しい倫理運動となって行った。

特に日本では「神と商取引するが如く」などと、過剰な道德理論展開となり「例会食に霞を出すつもりか、現実無視の綺麗事は聞きたくない」とまで言われるようになった

それはさておき、ロータリアンの職業によって^{れんま}錬磨された才能と手腕、盛業によって得られた社会的な地位や経済力、これらをあらゆる奉仕活動に捧げてこそ、広義の「職業奉仕」と言うことができるのではないだろうか。

職業奉仕というロータリー語には「理念と活動」の二つの意味が含まれている。

区別して考えないと、職業奉仕論は混乱する

職業奉仕→理念→実践活動→個人奉仕・狭義の解釈

→集団奉仕 → 広義の解釈

人の姿形 = ^{すがた}相が心の働きによって行動するように、職業奉仕という姿形は、理念という心の働きによって、行動する。それは、個人奉仕と集団奉仕とがある。

個人としての職業奉仕活動の実践：

- 1 職業奉仕理念を基盤に、日々の生業を営み、
- 2 クラブの集団奉仕に参加し、自己の職業上で得たものを生かす。

集団としての職業奉仕活動の実践 = クラブが行う職業奉仕の例：

- 1 会員に正しい理解を得る研修。
研修セミナーに出席したら、内容を会員に伝達する。
研修卓話・フォーラム・情報集会を実施する
- 2 会員の職業上の手腕・技術・才能・地位・・・を社会の問題や要望に役立てる企画。
- 3 会員の家族・従業員・一般社会へ啓発普及を図る企画。
- 4 クラブの広報に資する社会的奉仕活動の実践。

クラブが行う職業奉仕活動の具体的な例を挙げれば：

四つのテスト普及運動。

職業奉仕の実例のある職場例会開催。

優良従業員表彰例会では、関連した会長の挨拶・卓話。

ロータリー家族に・会員家族に、理念を機会あるごとに語る。

青少年育成に資する、出前講座・体験入社など・・・。

外国人労働者支援など・・・。

四つのテスト解説冊子配布など・・・。

職業奉仕の理念は不易、その実践は流行。

集団奉仕は、個人奉仕の訓練のためにある。（決議 23-34）。

以上の論旨から、職業奉仕とは：

「不易なる職業奉仕の理念は、奉仕の理想であり、個人の職業とクラブの集団活動において、その具現化・実践に努力することを言う」と、纏めることができよう。

「最もよく奉仕する者最も多く報いられる」。

そしてその奉仕は「超我の奉仕」でなければならない。

即ち「最もよく超我の奉仕をする者最も多く報いられる」

どのような奉仕活動でも、ひとつの奉仕活動のなかには、さまざまな五大奉仕の要素が混然と混じり合っている。そして、全ての奉仕活動は職業奉仕の基盤の上にある五大奉仕を樹に例えれば、ロータリーの樹の幹はクラブ奉仕、枝や葉は社会・国際・青少年奉仕、職業奉仕は根、根がしっかり張ってはじめて枝葉が茂り、寄附の花も大輪に咲く。

しかし、資本主義の形態が変化しつつある現代に於いて、初期の資本主義経済社会に生まれた職業奉仕理念であっても、「奉仕の理想」実践の精神はその耀きを失ってはいない。奉仕という愛の手は、未来の社会にもますます求められる見えざる手ではないだろうか。AIにも職業奉仕理念を。

「奉仕という愛の心」は、身体構造がいかに変わろうと人類の心の必須条件である。

職業奉仕理念を身に付けるには、何処でどのようにしたら？

それは**例会という道場**。

奉仕の理想の在り方を、思い起こしてみよう。

理想的な奉仕のあり方は、対する人の求めるところを、洞察し、共感し、理解して、そして思いやりの手をさし伸べること。

それは「己の欲するが如く他者にもせよ」（黄金律）「六波羅蜜の布施」と、説かれているが、言うに易く行うに艱（かた）し。

人の思うところを、瞬時に洞察する敏感な神経、共感する豊かな情感、理解するには深い叡智、これらを身に付けていなければならないからである。

思いやりの心だけいくら強くても、行動に移さなければ何もならないからである。

時には勇気をもって、実践に移してこそロータリアン。

洞察→共感→理解→行動、信頼を築きそのうえで、顧客の求めるところ、己のされんと欲するように奉仕すれば、「最も良く奉仕するもの最も多く報いられる」のは当然の成果。

「入りて学び出でて奉仕せよ」=例会に入りて奉仕の理想を学び、出でては事を為すとき「超我の心」を以てこれを実践せよ。

「奉仕の理想」をはじめとする「理念」を身につけ、その実践のために「組織」があり、円滑な運営のために「規範」がある。そして奉仕活動が展開する。これがロータリーという集団の独自性ではなかろうか。

「理念を掲げ 意欲を喚起し 共に行動を」。

木村年度のスローガンである。

前述のように、ロータリーの綱領（目的）・主文には、「・・・奉仕の理想（理念）を事業=enterpriseの基礎に置くことからはじめよ」と、説かれている。

理念なき奉仕は徒花。

理念なき奉仕は、ロータリーの奉仕に非ず。

もっと楽な奉仕団体は、いくらでもある。

理念を知らずして、ロータリアンと言うなかれ。

リーダーには、「理念を解かり易く一般会員に、特に新会員に解説する」という重要な責務があると思う。

来期の提案として、例会場に；

ロータリーの目的（綱領）・二つのモットー・四つのテストのパネルを掲げよう。

この解説に加え、決議 23-34 の第一項・職業奉仕について、繰り返し語る機会を設けよう。

日本の、伝統的なロータリーの姿を明確に描こう。

例会は、

日本のロータリーの伝統の姿の原点。

日本のロータリーの誇りある伝統とは、「姿の原点＝例会・心の原点＝奉仕の理想」。就中、奉仕の理想を例会で学び、職業において実践すること。

伝統を護るということは、旧きを墨守することではない。旧き新しきではなく、良き悪しきである。良きものを、同じパラダイムの新しき器に盛ること、良きものは「不易」新しき器は「流行」。前例通り穏便＝怠惰に繰り返せば、老舗といえども没落する。ロータリーにおいて、不易なるものは理念であり、奉仕事業活動は流行である。流行の波のまにまに、不易なるものは姿を変えて現れる。

ロータリアンとして、奉仕の理想の実践方策を会得するためには、例会で、超我の奉仕の神髓を極めた立派な先輩の身近に座り、その境地を学ぶことしかない。初めは猿真似でもよい。

あなたはあなた自身の意思だけで、世界中どこの例会にでも出席し、誰の隣にでも座るロータリアンのみにも与えられた特典をもっている。PrivilegeRI 細則 4.100.

例会を作る。

クラブ奉仕委員会の、最も重要な絶え間ない奉仕活動。

例会が開かれるから、あなたは出席するのではない。

あなたが出席するために、例会が開かれる。

例会は楽しく、食事は美味しく。信頼できる情報収集・異業種交流の機会。

しかしそれだけならば、もっと他にも機会はある。

あなたはなぜ、高額の会費を払うのか？

そこに何らかの価値がなければ、全くの浪費。

例会の価値。

それを作るのは会長ではない、SAA やクラブ奉仕委員会でもない、

あなた自身である。

それができないようなクラブなら、移籍すればよい。

クラブは、出席と参加の二極分化が進み、どちらのクラブを選ぶかはあなたの自由。

1920年 東京クラブ創立（大正9）軍国主義の世、右翼の迫害の中、各地でRクラブ誕生。

往時を偲んで今も歌う「・・・御国に捧げん我らの生業・・・」（1935）

1937年 日中戦争勃発（昭和12）。1941年 第二次世界大戦に参戦。

1945年 米軍の都市空爆始まり・・・降服終戦。

1940年 東京Rクラブ解散 R I 脱退。

その時米山梅吉は挨拶で「奉仕の理想はあくまで堅持したい」と、述べたと伝えられる。
しかし多くのクラブは、ロータリーの名を隠して例会を護り続けた。

何の奉仕も儘ならぬときに、残ったのは例会。

「・・・奉仕の理想に集いし友よ・・・」

例会それは、「・・・集いて図る心は一つ・・・」

信頼する仲間と共に、童心に還って過ごす安らぎの異次元世界。

そして「・・・力むるところは向上奉仕・・・」

高い倫理観を持った人間性を磨く学びの道場。

お互いを支え合う職業の「重さ」を知る機会。・・・職業分類。

例会は、すべての奉仕活動の源。

例会が消える日は、日本のロータリーが消える日。

これまでに得た結論

- 1 先賢の思想的翻訳によって、奉仕の理想を中核に、職業奉仕実践を基盤に置いた我国独自のロータリー哲学が生まれた。
- 2 この哲学を基盤に、奉仕の理想を堅持すべく、学びと親睦の例会を死守し、艱難辛苦を乗り越えて、日本のロータリーの伝統が創造された。
- 3 この誇るべき伝統が源流となり、100余年を経て今の大河となった。
- 4 この歴史こそ、他の奉仕団体と一線を画する、我々のステータスではなかったか。
- 5 世界のロータリーが如何に在ろうと、寛容の心を以て多様性を認めながらも、日本に伝えられた、このロータリー本来の姿を堅持するに、何の問題があるうか。

リーダーよ
輪に坐して叡智を交わし
起て
炎となって行動せよ

彰往考来、強いクラブが未来を開き、花開けば蝶自ずから集う

I serve ・ We serve

個々が同じ志と云う相互関係で結束した「集団」。

共通の目的のために組織化された「団体」。

I serve の I は集団を形成する「我」。We serve の I は団体に従属する「我」。

いっしょに一斉に行動するから We serve ではない。

ひとりで別々に行動するから I serve ではない。

I serve の I は

例会に入りて奉仕の理想を学び、出でては集团的奉仕活動で鍛錬、社会生活に職業に個人生活でも、超我の奉仕を目指す「我=I」。

そして再び入りて学び、より高い心を涵養して奉仕に精励し、常に超我の精神を守ろうと努める「我=I」。

稽古とは一より習い十を知り
十より帰るもとのその一

利休茶道百首

十を知って戻った一は $10 + 1 = 11$ 、 $11 + 10 = 21 \dots \infty$ 。

少我を捨て大我を志す I serve の「我=I」。

今日よりは明日、より高くより深くより大きく・・・I serve の神髄・理念。

それはロータリアンである限り続き、その理想の究極は、
「天寿退会」。

日本語大辞典 小学館 漢字の使い分けときあかし辞典 研究社
大漢語林 大修館書店 Random House E-J Dictionary 小学館
大辞泉 小学館 新和英大辞典 研究社
・・・他

各位の業績から、沢山引用させていただきました。深甚の感謝を捧げます。

主要参考文献等

村上治朗先輩（岐阜 R クラブ）四つのテストまで
有巢栄里子様（高山市本陣平野屋女将）岐阜新聞紙
田中 毅 PG（源流の会）論説.著書
刀根庄兵衛 PG 月信他
小船井修一 PG 講演記録
北川宥智 会員 ロータリー語ときあかし辞典
黒田正宏 元 RI 理事 源流の会 ロータリアンの広場
松宮 剛 元 RI 理事 ロータリーの友
海原純子様 新・心のサプリ 毎日新聞紙
ホモ・サピエンスの秘密 インフォビジュアル研究所
だめだし日本語論 太田出版
万葉集から古代を読み解く 上野 誠
他 各位
小著 I serve

本資料をご利用の際には、出典を明らかにして下さるようお願いいたします。
お問い合わせ・ご連絡は ; georamis @ hattori-one.com。